

1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が日本海でほとんど停滞。別の高気圧が日本の東を東へ移動。本州付近は高気圧に覆われて晴れている。
- ② 日本付近では偏西風が大きく蛇行し、500hPa 5700～5760mの寒気を伴うトラフが日本の南を南下。直下の八丈島では09時 500hPa -18.7℃を観測。上空寒気の影響に海面水温の高い黒潮の影響が加わり、日本の南では大気の状態が不安定。対流雲が東西に連なり、雷を伴う激しい雨や非常に激しい雨を解析。
- ③ 沖縄の南～日本の南～南鳥島近海に前線がのびている。前線近傍の先島諸島周辺では、激しい雨や非常に激しい雨を解析。
- ④ 500hPa 5700m付近の流れに対応した低気圧がオホーツク海を東進。①の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、北海道地方ではやや強い風が吹いている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の日本海の高気圧は、17日にかけてほとんど停滞し、本州付近を覆う。高気圧圏内の下降流に伴い、全国的に850hPa 15℃前後の暖かく乾いた空気に覆われ、日中は晴れて内陸を中心に気温が上がり、真夏日となる所もある。熱中症などの健康管理に留意。
- ② 1項②のトラフは、上空の流れから切り離され、伊豆諸島付近と南西諸島付近で寒冷渦となる。これらの寒冷渦は17日にかけて動きが遅く、ほとんど停滞する。2項①の下降流による断熱昇温で上空の寒気は弱まる傾向だが、1項②の日本の南では、引き続き大気の状態が不安定となり、局地的には非常に不安定となる。伊豆諸島では16日にかけて、西日本では15日は、落雷や突風、降ひょうに注意。伊豆諸島では竜巻などの激しい突風にも注意。
- ③ 1項③の前線は、沖縄の南～日本の南では2項①の日本海の高気圧の張り出しに伴って南下する。一方、2項②の伊豆諸島付近の寒冷渦の東側にあたる小笠原近海～南鳥島近海の前線は北上し、17日には、日本の東や日本の東のはるか東に北上する。前線周辺の下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。小笠原諸島では17日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。
- ④ 1項④の低気圧は15日夜には千島近海に進み、16日には別の低気圧が沿海州から千島近海へ進む。北海道地方では16日にかけて強風に注意。また、南西諸島では高気圧の南縁で吹送距離の長い東寄りの風が続き、波が高くなる所がある。南西諸島では16～17日は高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の寒冷渦、2項③の前線の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：奄美・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。